



網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari
visitor center

Vol.114

2024.5



顔はそれ程目立ちません…

溪流の貴公子

amiharinomoroinkimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomoroinkimonotachi amiharinomori

華やかな存在の「オオルリ」

快晴ではあるものの帽子が飛ばされそうになる程の強風の中、湯ノ沢大橋の真ん中でオオルリに会いました。どこからともなく落ち着いた調子の囀りが聞こえ「オオルリかも？」と最小限の動作でカメラを構えつつ声の主を探していると、既に葉を広げた木々が多い中、開葉したばかりのミズナラに青と白の対比が明瞭なオオルリが留まっていました。木の上部の梢などでじっとしているイメージがあるものの、この時は木の間辺りの枝の上で頻繁に向きを変えたり、飛び立ってもすぐに舞い戻っては囀るなど、沢沿いの開けた空間にまんべんなく自分の声を響かせテリトリーを示すのに忙しそうでした。最後に“ジジッ”と鳴く特徴的な囀りは、頭部の羽毛が時々逆立つ程の強風や雪どけ水が勢いよく流れる沢の音にもかき消されることなく、しっかりと聞こえてきました。その姿は名前の由来にもなっている瑠璃色とお腹の白色の対比が際立ち、気品さえも感じさせます。図鑑などとは異なり野外で見る瑠璃色はどこか控えめで、黒色の顔や胸は更に目立たず、お腹の白色の方がかえって鮮明に見えました。実際に上空から眺めたら背中中の瑠璃色は意外と辺りに馴染んでカモフラージュになっているのかも？鳥瞰できたらもっと面白い世界が広がるだろうなぁと想像が膨らむ出会いとなりました。

What is "Ooruri"?
「姿も囀りも美しい青い鳥」
 ヒタキ科
 全長：約 16~16.5cm
 分布：北海道~九州
 夏鳥で平地から山地の落葉広葉樹林、針広混交林、溪流沿いの暗い林などに生息する。巢も溪流の近くの林や崖などに作る。美しい囀りからウグイスやコマドリと共に「日本三鳴鳥」、ルリビタキやコルリと共に「瑠璃三鳥」とも呼ばれている。
 (参考図書：「日本の野鳥 650」他)

amiharinomoroinkimonotachi amiharinomori amiharinomoroinkimonotachi amiharinomori amiharinomoroinkimonotachi amiharinomori amiharinomori

光 と 色 の
いろいろ

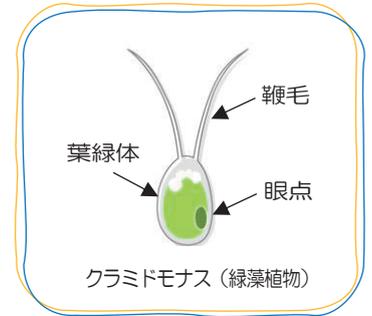
No. 1

『闇夜の黒牛』という、日本のとんち話があります。
旅の宿で威張った絵師に反発し、つい自分も絵かきだと偽った旅人。
絵師の画を「修行がたりぬ。」「ものが見方がたりぬ。」とこき下ろす。
周りから失笑をかった絵師は腹を立てた。「お前の腕前も見せるがよい。」
筆を借りた旅人は、紙を真っ黒に塗りつぶし絵師に差し出した。
どなる絵師。「いったいこれはなんでござる。」
「おわかりになりませぬか。闇夜の野原に、黒牛が寝てござるに…。」

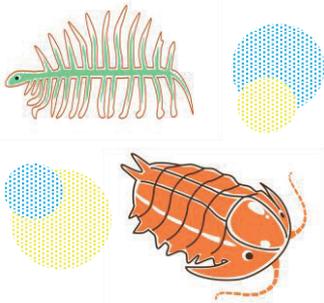


そもそも生物の進化において、視覚情報はどのように培われたのか？

視覚によって対象を認識する事は、生存競争の厳しい自然界において有利に働きます。原始の単細胞生物には眼がありませんでしたが、長い時間をかけて明るさを感じ取る「眼点」を生み出し、自らの運動の方向を決められるようになりました。やがて単細胞生物の感受器官は、多細胞生物の「視細胞」へと進化を続けます。



カンブリア紀に眼を持った生物が多数現れるようになった。



複雑な眼を持つ最初の生物は約5億4000万年前に現れたと考えられています。眼の出現によって「食う」「食われる」の生存競争は一段と加速し、多様な生物が現れました。この“カンブリア爆発”によって、現生する動物界のすべての“門”が出そろったそうです。

眼を持つようになった生きものが、光や色を感じる事で「形」をも認識するに至った仕組みについて、次回探っていききたいと思います。

参考図書：ポール・D・テイラー&アロン・オデア『世界を変えた100の化石』



アミハリ・バース
Vol. 5 7

キセキレイ

科名：セキレイ科
全長：約20cm
生態：留鳥・漂鳥
分布：日本全国
(小笠原を除く)

チチッ チチッ…
ツイツイ…



ハクセキレイはわりと見かけますが、こちらはたまにしか出会えません。漢字に表記すると黄鶺鴒で、昔は背筋を表す「脊」と冷たく澄んだ意味の「令」を合わせ「脊令」と書いたそうです。水辺でリズムカルに尾を上下する姿を、昔の人は小気味よく感じたのでしょう。その様子から「石たたき」「庭たたき」という異名もあります。

繁殖期の夏羽では雄は喉元が黒くなり、黄色の色彩が強くなるそうです。キビタキの雄にもひけをとらない鮮やかな色彩は、見た者にしばらく余韻を残しそうです。



おかげさまで今年度、開設20年目を迎えます！

スタッフの目から見た網張ビジターセンターの20年

大堀 拓（元網張ビジターセンター主任解説員）

第一話 『ビジターセンターってなんだ？』

網張ビジターセンターが誕生したのは今から 19 年前の 2005 年（平成 17 年）1 月 21 日、建設工事が終わってまだ日が浅く館内は内装に用いたサクラやカラマツの香りが立ち込めていました。私自身は偶然に開館直後のビジターセンターを訪れています。網張温泉に行った際、隣に見慣れぬ大きな建物があって受付の若い女性に「無料で入館できる国立公園の紹介施設です」と笑顔で言われ思わず中へ入ってしまいました。四季の岩手山が次々と方角を変えて映し出され、高山植物標本が暗い中にスポットを浴びて浮かび上がり、周囲の壁を岩手山の植生・生き物・火山を詳しく解説したパネルが埋め尽くしています。当時はビジターセンターの意味も全く知らず単純に「立派な施設だなあ」と思っただけで、数年後に自分がここで働くことになるとは夢にも思いませんでした。帰り際、国立公園で施設の維持修繕・自然ふれあい活動などを行うボランティアを募集中と聞き何気なく申し込みました。幸いにも岩手山地区パークボランティアの一期生として登録され活動拠点がビジターセンターだったことから、ここで働くスタッフの人達と知り合うことになりました。

当時の責任者は環境省 OB で長野県出身の千村勝哉さん。国立公園を厚生省が所管していたころからレンジャーの方で国立公園と自然保護にかける思いは本当に熱いものがありました。ある日、事務室で雑談している折に彼が話したことは忘れられません。「大堀君、どこに行ってもビジターセンターがあるのは当然だと思っているだろうけど昔は違った。国立公園のレンジャー自体、県の出先機関で机を借りて仕事をしたり、家族と住む借家が事務所兼用だったりしてビジターセンターなんて夢のまた夢。昭和 38 年に日光国立公園に初めてビジターセンターの前身となる施設が出来た時は、涙が出るほど嬉しかった。全国のレンジャー達にとって国立園

の中心施設としてビジターセンターを持つことが長年の悲願だったのだよ。」

しかし、網張ビジターセンターの誕生の際も千村さん達が多くの壁に直面していた事を後で知らされました。建物自体は環境省予算で建設されたとしても、この施設を実質的に動かすための「ビジターセンター運営協議会」を立ち上げることが最大の難関でした。各行政機関や観光組織に参加を呼びかけますが、それぞれの考え方の違いで組織作りは難航したそうです。特に不足する費用負担をお願いすると返ってきたのは「ビジターセンターって何をやる施設なの？地元へ何のメリットがあるの？経済効果はどれだけ期待できるの？」といった率直な疑問の声。「国立公園は誰のものでどう利用されるべきか」の共通理解も不十分な中、「ビジターセンター」の存在理由も一般には伝わっていない。そんな状況下で膨大な資料を作り、何度も足を運んで関係者に説明を繰り返したそうです。そこで強調したのは「設置者の独断的な運営でなく、利用者に喜んでもらえる。常に地域と連携して地域住民の交流・体験の場にしていこう」ということでした。当時の零石町長から「地元の小中学校の生徒が大いに活用できる施設になってくれるのであれば」と期待する声もあって、やっとの思いで網張ビジターセンター運営協議会が発足したそうです。解説員に地元零石町出身で岩手山周辺の山域を熟知した岡森喜与一さん、窓口で来館者対応にあたる業務員に OA 業務経験も豊富な松木（現坂内）美佳さんを迎え三人体制で本格的な業務が始まりました。と言ってもビジターセンターとしての経験も頼りになるマニュアルも無い手探り状態のスタートでスタッフ自身が「ビジターセンターって何だ？」と試行錯誤を続ける 20 年間の始まりでした。



網張の森 定点観察①

同一樹木の一年を通じた定点観察記録です。新緑、開花、結実、紅葉など限られた時期に目が向きがちですが、季節が巡る中で少しずつ変化している様子を観察します。あわせて森の様子もお伝えします。



定点観察の「トチノキ」

定点観察の「ブナ」

「湯ノ沢橋」 撮影：5/15

ビジターセンターから徒歩約 5 分。硫黄分を含む酸性の強い温泉が流れ込む湯ノ沢に架かる吊り橋です。

せせらぎの音と共に運がよければオオルリなど野鳥のさえずりも楽しめる網張の森散策イチ押しスポットの 1 つです。

ブナ (ブナ科)



4/18 芽鱗の下から葉や花芽が頭を擡げる。近くにシヨウジョウバカマが咲いていた。



4/27 葉が広がると同時に開花。オオヤマザクラが見頃を迎えた。



5/5 雄花序は垂れ下がり、雌花序は上をむく。近くのムラサキヤシオツツジが咲いていた。



5/10 若い果実がたくさん付いている。エソハルゼミが鳴き始めた。

トチノキ (ムクロジ科)



4/18 まだ冬芽は硬い。キャンプ場ではキクザキイチゲのお花畑が広がっていた。



4/27 樹脂でべとつく芽鱗が剥がれてきた。館内にヒガシニホントカゲが迷い込んだ。



5/11 葉が開くと同時に花序も伸びだす。森の中をイカリモンガが飛んでいた。



5/15 蕾はまだ硬い。ビジターセンター前のトチノキが咲き始めた。

(画像提供：岩手山地区パークボランティア)

色とりどり…賑やかな春です

4/7 「根開きのブナの森で春を探そう」



好天に恵まれたハイキング日和。眩しい日差しの下、真っ青な空と雪のコントラストが美しく、野鳥のさえずりや大きく膨らんだブナの冬芽、木々の根開き等、春を感じながら歩きました。「いい天気で春を感じられ、植物の話も参考になった」「初めてのかんじきで、スノーシューと違う感覚で歩いて楽しかった」参加者感想より。総勢 20 名

5/6 「鞍掛山麓花愛でるハイキング」



岩手植物の会の工藤宏氏を講師にお迎えし、今咲いている花やこれから咲く花など丁寧に解説していただきました。「例年より開花が早い。今日見られたのはいつもではなく、異常な状況」というお話や写真撮影についても伺いました。「今日のシラネアオイには感激した」「この豊かな自然が長く続くようにするにはどうすればよいか考えていきたい」参加者感想より。総勢 29 名

雫石町グリーン・ツーリズム



雫石町グリーン・ツーリズムを受け入れました。雫石町内では農作業が中心で

すが、網張ではかんじきのメンテナンス、樹名板作成や取付、網張の森の自然観察等を体験。網張の森や館内展示の「私のイチ押し」も書きました。4/24 仙台市立将監中学校、5/9 仙台市立六郷中学校、5/14 仙台市立将監東中学校、5/17 苫小牧市立光洋中学校。各校から6~7名参加。計 26 名

網張ビジターセンター開設 20 周年!



網張ビジターセンターは、お陰様で今年度開設 20 周年を迎えます。十和田八幡平国立公園岩手山地区の自然ふれあい活動拠点施設として、これまで 38 万人以上の方々にご来館いただきました。これからも国立公園の「自然と人間のかけはし」を目指し皆様に愛される施設となるよう努めて参ります。今後とも宜しくお願いします。20 周年を記念し、行事にご参加頂いた方にオリジナルの絵ハガキを進呈しておりますので、この機会に是非ご参加ください。



20 周年記念の絵ハガキ

ヤマアカガエルのオタマジャクシ生態飼育展示中!



4 月 15 日に森で採取した卵塊の一部を孵化させ幼体を水槽に移して皆さんにご覧いただいています。6 月 16 日・22 日にカエルの赤ちゃんを森に帰すミニ企画を開催します。参加者募集中です。

-現在開催中のビジターセンター企画展-

5 月 1 日(水)~6 月 30 日(日)

-工藤 義之 水彩画展- 「“岩手の滝” 風景」



遠景の山の風景を描くのととは違って、滝の風景はその現場近くに行って描かなければならない訳でその場に行くこと自体が大変です。しかし、その場に行った時の感動は一般的な風景とは違い、水流の動きと音響は正にその場でなければ感じられない景色です。その絵を見て絵の中から滝の音を感じていただければ幸いです。-出展者より-

インフォメーション

6/23(日)~網張ビジターセンター開設 20 周年記念行事~ 市民火山教室『七滝から知る岩手山~火山地形ハイキング』

9:30~14:00

集合:岩手県民の森 森林ふれあい学習館 フォレストi 裏側駐車場(八幡平市)集合

講師:土井 宣夫 氏(岩手山山地質研究所所長)

定員:10名 ※定員に達しました

参加料:大人800円 小学生以下400円

7/6(土)~7/10日(水)

夏の網張の森ヒメポタル観察会

19:40~20:40 網張ビジターセンター集合

定員:各10名 ※要事前予約

参加料:一人500円

7/13(土) 国立公園で楽しむ親子の自然体験

「ナイトハイクと星空観察☆」

18:50~20:50 網張ビジターセンター集合

講師:高橋 智香子 氏(星の案内人)

伊藤 修 氏(星の喫茶室)

定員:親子10組20名 ※要事前予約

参加料:大人800円 中学生以下400円

7/27(土)~網張ビジターセンター開設 20 周年記念行事~ 国立公園で楽しむ親子の自然体験

「よるの森をのぞいてみよう! コウモリ調査体験と昆虫ライトトラップ」

18:50~20:50 網張ビジターセンター集合

講師:コウモリの保護を考える会

三井 秀男 氏(岩手虫の会)

定員:親子10組20名 ※要事前予約

参加料:大人800円 中学生以下400円

モモンガのつぶやき

我が家にいるペアの烏骨鶏(うこっけい)はトウモロコシなどの穀類が主食ですが、高齢になってきたこともあり、甲虫の幼虫を乾燥させた栄養価の高い「ミルワーム」を一緒に与えたところ、食いつきがとてもよく、動きも何だか浚刺としてきました。ある朝、鳥小屋を開けると床上に鶏よりもひと回り小さい卵が割れていました。「もう何年も卵を産んでいないのに!?!」。残念ながら卵の殻は薄すぎて割れてしまいましたが、おばあちゃん烏骨鶏が産卵できるほどに昆虫は栄養満点ということを目の当たりにしました。夏鳥たちがはるばる遠くから渡ってくる理由もここにあるんだなあ。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 3月 937人 ◆ 4月 1,373人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 3月 -4.1℃ ◆ 4月 6℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時